

發行編輯人 川崎文治  
印刷所 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地  
發行所 常磐毎日新聞社

# 常磐新聞

定 價 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元  
郵 費 在內  
印 刷 所 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地  
印 刷 機 一〇〇活版所

刊 夕 日 七 月 八

## 常磐文藝

平第一臨海學校  
生徒作品  
海  
橋本武雄

さけいなく  
お月様  
キラ〜と  
海を照して居る  
お月様の水泳  
臨海學校  
赤はちまき  
ボツ〜  
うかんでる

大波小波の  
そのなかに  
臨海學校の  
赤はちまき  
ボツ〜  
うかんでる

吉川 正

## 開設 大村や

料理御 大村や  
郡役所横通  
館 大村屋  
平町二丁目  
(電話一七五番)

女給募集  
安價  
洋食は向上軒  
迅速  
平町車場新道通り  
(電話五二三番)

夏 第一歩の試み!!!  
色のさめない地質のよい  
本染友仙モスリン  
製造元直接出張大廉賣致  
しますから御批評旁々御  
一覽下さい  
期日(八月三日迄)  
五日間  
場所 平町四丁目協通  
モスリン友仙製造問屋  
餅田商店

中元贈答用品  
の御用命は  
是非和久井屋へ  
籠屏風は原價にて  
提供致します  
是非お越下さい  
平町二丁目  
和久井屋  
電話四〇五番

### 農村中堅に警告

農村に於ける中産階級は自己の体面を保つ爲め並に子女の教育を爲さんが爲めに収入以上の出費を見今や如何ともする能はざる立場に陥つた、他人の土地を小作しても相當に生活し得るものがあると言ふに中産階級の農民が生活し得ないと言ふのは舊慣に因はれて自ら働く事をせない爲めではなからうか、農村に於ける中産階級の人々は何れも眞面目に働いて居るかどうか体面を保たぬが爲めと誤つて自ら鋤鋤を採らず村治

### 急告 平劇場小屋貸

一、入札日(天正十三年八月十日午後一時)  
二、契約年限(二年以内)  
三、場所(平劇場内)  
御希望の方は御來談を乞ふ  
平町白銀町  
平劇場株式会社

## 母よ!

愛兒のために  
メリンミルク  
東京菓子會社  
東京丸の内  
特約店 ヤトモツマ

## 中元大賣出し

御贈答には 美しく! 便利で喜ばれる  
美しく! 便利で喜ばれる  
美しく! 便利で喜ばれる

西村屋薬舗  
平町二丁目  
電話三番

牛肉と葡萄酒  
米國スエット會社一號  
コンビーフ牛肉 正味九十  
夕久一罐 金四十錢  
甲斐産商店勝沼工場製  
大黒葡萄酒 正味 金一圓九十錢  
洋酒罐詰食料品商

中野吳服店  
平町三丁目  
(電話六十七番)

に奔走し徒らにその子に高等の教育を授けんとする事などが中産階級の人々の經濟的破滅を招致せんとする主因ではなからうか、農村にあつては働いても喰ふ事が出来ないと言ふ人もあるがどうして働いて喰へないのか、一家内揃つて働いて喰へないと言ふものが果してあるかどうか遊んでゐるもの、食へないのは獨り農村のみでない都會でもやはり同様である農村に於ける中産階級の人々の中にも兎もすれば眞面目に働かず半遊び暮して居るものが多い様に見受けらるゝ、若し此の觀察に誤りがなければ

### 丸登株式會社

平町田町 電話三二三番  
川添房二郎

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	七一〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	五〇〇	四三〇
磐城實業	三〇〇	二九〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同 新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	二二五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	三七〇
同 新	二五〇	一七〇
只見川電	一一五	六五
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
磐城製菓	二〇〇	五〇
平信託	五〇〇	四〇
磐城製菓	一一五	二五〇
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三三五	一七〇
小田炭礦	二五〇	六〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六四五
同 新	二五〇	三四五
平運送	一一五	八〇

左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候

株式買中値

# 公設市場とは 一個人の金儲けに 便宜を與へる機關?

### 廢止説に賛成者投書を寄す

平町公設市場は無用の長物なりとして一日も速やかに廢止すべきを主張した本紙の記事に對し愛町生の匿名を以て左の投書を寄せられた方がある(前略)無用の長物である公設市場の廢止は至極同感でありまして町當局は一時も早く斷乎たる處置を構すべきであると思つて居ます、第一同市場は平商業學校から電話を接続し乙番を持つて居ますが商業學校へ電話を掛ける場合何時でも不便を感ずる事は

## 警官隊歸る

### 平署の一部が

東宮同妃殿下行啓警護の爲御旅行御道筋及翁島方へ出張したる平署警官六十名中炭礦及停車場所在地及び本署勤務の若干名は中村警部

## 列車立往生 機關車の故障

### 平驛發午前十時四十分下り

瀧江筋組合對平水道の水量半減問題善後策水量増加の問題第二期擴張工事に關する件等を附議した

瀧江筋組合對平水道の水量半減問題善後策水量増加の問題第二期擴張工事に關する件等を附議した

きて見ると一人の子供が「お腹が痛い」と云ふ。曾我校長自ら看護、コロダインを吞ませると少し落ちつく。六張の蚊帳からは可愛イビキが降る様に聞える。

## 不平受付

### 柳町の新道路

柳町の新道路 本町役場の英斷により城山三の丸と二の丸を切通し柳町に通ずる新道路は昨年十二月から工事を起し目下九分九厘迄出来せり然るに請負者の無責任から知らぬが一部分未完成の爲め折角の道路も其効がない責任ある當局者の答辯を求める(城山住人)

## カテイラン

### 瓜の奈良漬

ごく肉の厚い上等の漬瓜を選び、たて二つに割り、中の種やわたをきれいにとり去つて、その中へ鹽を軽く一ぱい詰め、そのまゝ半日ほどおきます。樽の底に酒かすを一寸ぐらゐの厚さに

## 平水道研究

### 緊急事項協議

平町水道の現状を調査せんとして二三有志に依り平水道研究会を組織し昨夜萩原齒科醫宅にて其會を催し大

## 耕地を荒す

### 五日の降雨で

石城郡夏井村と草野村とを貫流する夏井川下流は五日

## 常磐片々

昨日の本欄吉田禮次郎君の『〇の關係かナ』で〇を金と解釋した讀者が仲々多いと

## 香水の心

◆香水は一体花のエッセンスでありまして、初めは花の香をアルコホルにつけたのです

◆香水は花のエッセンスであるから花に四季それぞれの色と風情と香ひとがあると同様に、香水にも、季により氣候によつて、用ふる時期と特徴とがあります

の香は夏の香でもなければ秋の哀傷の心にも移らないのです

## 傳書鳩を放つ

### 瀛車から

横須賀航空隊にては傳書鳩卅羽を五日午後十時四倉町に持ち來り翌六日午前七時同驛頭より水戸地方に向け廿六羽を放ち更に四羽は水戸行の進行中の瀛車より放ち直に一同々地を引き上げた

## 鯉漁は有望

### 漁場が南下

縣沿岸の鯉漁は暖寒潮の交錯な變則な爲め引續き不漁

丸で意味を履き違ひられてはコマル〇は飽迄〇である事をお断り申す

マルク思はないで戴き度い

山百合の風情もあり凛烈な二月の寒さを凌いで咲く梅

を重ねてゐるが五日來の時化で潮流に變化を及ぼしたるもの、如く即ち金華山沖百餘哩の地点に於て衝突し

四倉から 瀛車から

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地 發行所 常磐毎日新聞社

# 常磐新聞

定価 一月一元二角 三月三元五角 半年六元五角 一年十二元

印刷所 福島縣石城郡平町田町廿六番地 印刷部 一〇活版所

刊夕日八月八

**一冊の代金で**  
御希望通りな  
**五冊の雑誌が**  
自由に読める  
平町長橋町三五  
**川崎文庫**  
(申込次第規則書進呈)

**地賣**  
五丁目十一番  
宅地百六十二坪

**家賃**  
仲間町……四、〇〇〇  
櫻町……六、五〇〇  
平町白銀町  
**加藤營業所**  
電話三三二番

**常磐文藝**  
平第一臨海學校  
▽海岸の夕 佐々木忠雄  
夜の濱邊は 涼しいな  
濱風ソヨ吹く  
砂原を  
白ゆかたの人々が  
晝のつかれを休めてる  
▽燈臺 丹野 環  
ザアザードン  
やみの中からピカーツ。  
ザアザードン  
▽或夜の四倉 久野誠助  
形なき音なき燈臺の光は暮  
れた四倉海岸に光つて居る  
荒模様の海は、怒濤しきり  
に消散したの川をふくむ空  
は次第々々に暗雲にござさ  
れ東天一帶にひろがる廣大  
無邊な宇宙と海とは我等を  
おびやかして居る様にも思  
はれる  
願ると火星が赤く怒濤にま  
たひて居る

**安價** 女給募集  
洋食は**向上軒**  
迅速  
平停車場新道通り  
(電話五二三番)

**柏屋染物店**  
柏傳刺子部  
平町材木町

**印袈天**  
しるしはんでん  
弊舗の萬言よりも  
華客の一言にあり  
手拭・風呂敷  
消防被服  
刺子類一切

**大音堂**  
建築ペンキ塗  
美術諸看板  
硝子銀文字  
其他各種  
平町四丁目

**山古印醫油**



特長は 美味 經濟

元造 鹽  
**店本屋鹽**  
番七二話電

**急告**  
**平劇場小屋貸**  
一、入札日(大正十三年八月十日午後一時)即時開札同日契約  
二、契約年限 二年以内  
三、場所 平劇場内  
御希望の方は御來談を乞ふ  
平町白銀町  
**平劇場株式會社**

清酒  
**鶴仙**  
石城郡平窪村  
元造 釀  
**松吉屋本店**  
電話二四一番

自動車  
御料理は **尼子亭**  
平、四倉間 一人前 金 五拾錢  
平、四倉間 貸切り 金 五拾圓  
四倉驛 間 一人前 金 貳拾錢  
海氣館 間 一人前 金 貳拾錢  
平町公園(電話三三〇番)  
御料理 尼子亭  
御旅館 尼子亭

**馬鹿になれ** 中山雅司  
自分が馬鹿になつておれば、人は安心して随分色々な事をそれからそれへと教へて呉れる、併しそれとて馬鹿に附ける薬だと思つて教へるのであるから、くだらぬ事も多いが、中には捨て難いものも多々ある、穿つた眞理は案外に不意な所に落ちて居るのだ  
書物を読んで眼光紙背に通るといふ事が必要である同じく人の言を聞いても亦其言外の意味を洞察する心耳がなくてはならぬ  
浮世の戦場に立つて、互

に劍を振り廻して居る才子才物は澤山有るが、さて是等を統率して行く程の人物は容易に見當らぬ感がある官廳にしても會社にしても内部の事務を執るには小才のきいた刀筆吏が居れば足り、外部の事は惟れに侍る士が居れば大丈夫である、しかし此機關を眞に統御するに當つては、才子でも策士でも出來ぬ、そこで太腹のヌーボー式、なごらかと言へば遅鈍な人物が擧げられる、是れ器が清濁を併せ入れても破れる愛ひがないからで、隨て機關全體の上に進境が見える  
『人を使ふには自分が馬鹿

平町田町 電話三三二番  
**丸登株式會社**  
川添房二郎

左記の値段は日本の標準値に付御用の節は御問合願候

錦格	拂込	時價
警城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	七一〇
警越銀行	一五〇	一〇五
警城實業	五〇〇	四三〇
警城實新	三〇〇	二九〇
田村實銀	一五五	一二五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同 新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	一五五	一六〇
七七銀行	一五五	一六〇
郡山電氣	五〇〇	三七〇
同 新	二五〇	一七〇
只見川電	一五五	一五五
植田水電	一五五	一五五
好間水電	一五五	一五五
警城建物	一五五	一五五
警城製菓	二〇〇	四〇〇
平信託	五〇〇	二五〇
警城勸業	一五五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二三〇
好間軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	六〇
警城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
警城セメント	五〇〇	六四五
同 新	二五〇	三四五
平運送	一五五	八〇

**株式賣買中値**